令和7年度宮代町交通需要調査業務報告書

宮代町
企画財政課

宮代町交通需要調査業務概要

【趣旨】
　宮代町の地域住民の日常の移動を支える手段としての地域公共交通のあり方検討の基礎資料とするため、移動実態やニーズと公共交通の現状について調査を行った。

【調査内容】
（１）住民意識調査（2,000人無作為抽出によるアンケート）
（２）主要施設利用者調査（町内5施設、各日2日間インタビュー）
（３）地域ワークショップ
（４）交通動向調査（町内循環バスのデータ分析）
（５）交通事業者ヒアリング（交通事業者5社）

調査結果：住民意識調査

項　目	詳　　細
調査対象	宮代町内に住む満18歳以上の男女
調査件数	2,000人(無作為抽出)
調査様式	構成：総ページ数8P、問26項目 配布：郵送 回答：紙面回答にて返送、 　　又は、WEBフォームにて入力
実施期間	令和7年9月配布 　　10月末日返送〆切
返答数	1,017件（回答率50.9%）

実際に使用したアンケートの一部



R7年度 宮代町公共交通 アンケートNo. 0001

宮代町公共交通に関するアンケート ご協力のお願い

平素より、宮代町行政にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。
本町の今後の公共交通の更なる利便性及び持続性の向上を図ることを目的に、町内にお住まいの方を対象として、『公共交通に関するアンケート』を実施することとしました。
将来にわたり、地域のみなさまにとってより良い公共交通としていくための貴重なデータ、ご意見となります。
お忙しい中、大変恐縮ではございますが、本調査の趣旨をご理解いただき、アンケート調査へのご協力をよろしくお願い申し上げます。

＜ご回答いただく際の注意事項＞

■アンケートへの回答方法について
・選択肢(ア、イ、ウ～)があり、特に記載がない場合は、あてはまるものを「1つ」だけ選んで、各質問の記号記入欄にご記入ください。複数回答可の場合は、あてはまるものを、「最大3つまで」選んで、各質問の記号記入欄へご記入ください。
・記号記入欄には、必ず記号を1つだけ記入してください。
・「その他」もしくは、自由記述に関しては、記入欄にご記入ください。
・枠をはみ出さないようにご回答いただき、訂正する場合は二重線で消してください。

■WEBでのご回答について
本アンケートはWEBでもご回答いただけます。次のURLもしくはQRコードからアンケートフォームへアクセスしご回答ください。なお、ご回答の際は紙もしくはWEBどちらか一方としていただき、WEBでご回答の際は本用紙右上のアンケートNo.をご入力ください。

<URL>
https://forms.gle/6aid5EZ14mVeEaPy7

■アンケート回答期限について
ご回答・ご返送は令和7年9月30日までにお願いいたします。

〈お問合せ先〉
宮代町 企画財政課 管財担当
電話:0480-34-1111(内線 211・212)
メール:jyokan@town.miyashiro.saitama.jp

2

R7年度 宮代町公共交通 アンケートNo. 0001

問6 ご自宅にある乗り物で、あなたが利用する頻度が高いものを最大3つまで該当する記号をご回答ください。(複数回答可)
ア:自動車(自分で運転する) イ:自動車(自分では運転しない) ウ:自転車
エ:バイク オ:シニアカー カ:その他(記述欄にご記入ください)

6回答 記号記入欄			

【記述欄】

あなたの日常生活の外出状況について、4つの目的(①通勤・通学、②買い物、③通院、④趣味・娯楽・習い事・食事等)で、あてはまるものを教えてください。

問7 各目的における外出頻度について、該当する記号をご回答ください。
ア:週4日以上 イ:週2日～3日程度 ウ:週1日程度 エ:月に数回
オ:この目的ではほとんど外出しない

目的	記号記入欄
① 通勤・通学	
② 買い物	
③ 通院	
④ 趣味・娯楽 習い事・食事等	

回答記入例	
① 通勤・通学	イ
② 買い物	イ
③ 通院	エ
④ 趣味・娯楽 習い事・食事等	ウ

調査結果：住民意識調査

アンケート項目一覧

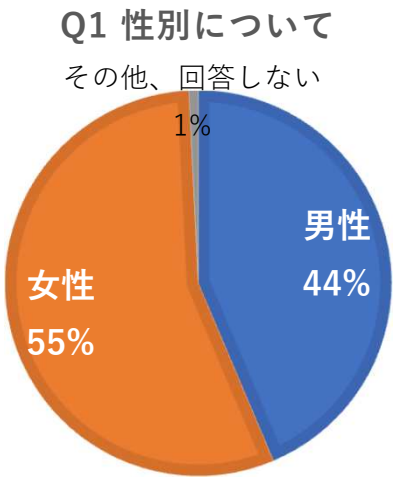
問	項目
1	性別
2	年代
3	お住まいの地域
4	世帯構成
5	運転免許所有有無
6	よく利用する乗り物
7	目的別外出頻度
8	目的別行先
9	目的別移動手段
10	目的別移動時間・時間帯
11	外出時の困り事
12	循環バス利用頻度
13	循環バス利用する曜日傾向
14	循環バス利用目的

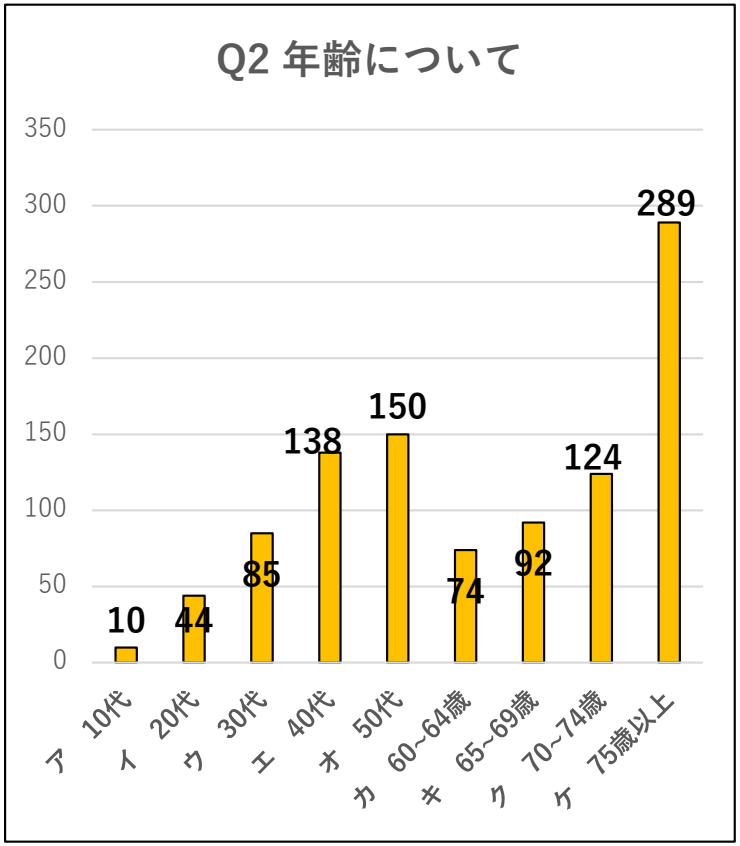
問	項目
15	循環バス利用行先
16	循環バス満足度、要望
17	循環バスを利用する理由
18	循環バスを利用しない理由
19	タクシー利用頻度
20	タクシー利用運賃
21	タクシーを利用する理由
22	タクシーを利用しない理由
23	タクシー助成事業助成券利用頻度
24	公共交通に対する考え方
25	公共交通の変化による外出機会変化可能性
26	公共交通に対するご意見、自由記述

調査結果：住民意識調査　　回答者属性

・総回答　1,017人、女性55%、男性44%
　　うち65歳以上 505人（50.2%）、70歳以上 413人（41.1%）
・運転免許　　保有７７%、自主返納6.4%、未取得13.7%

回答者の属性



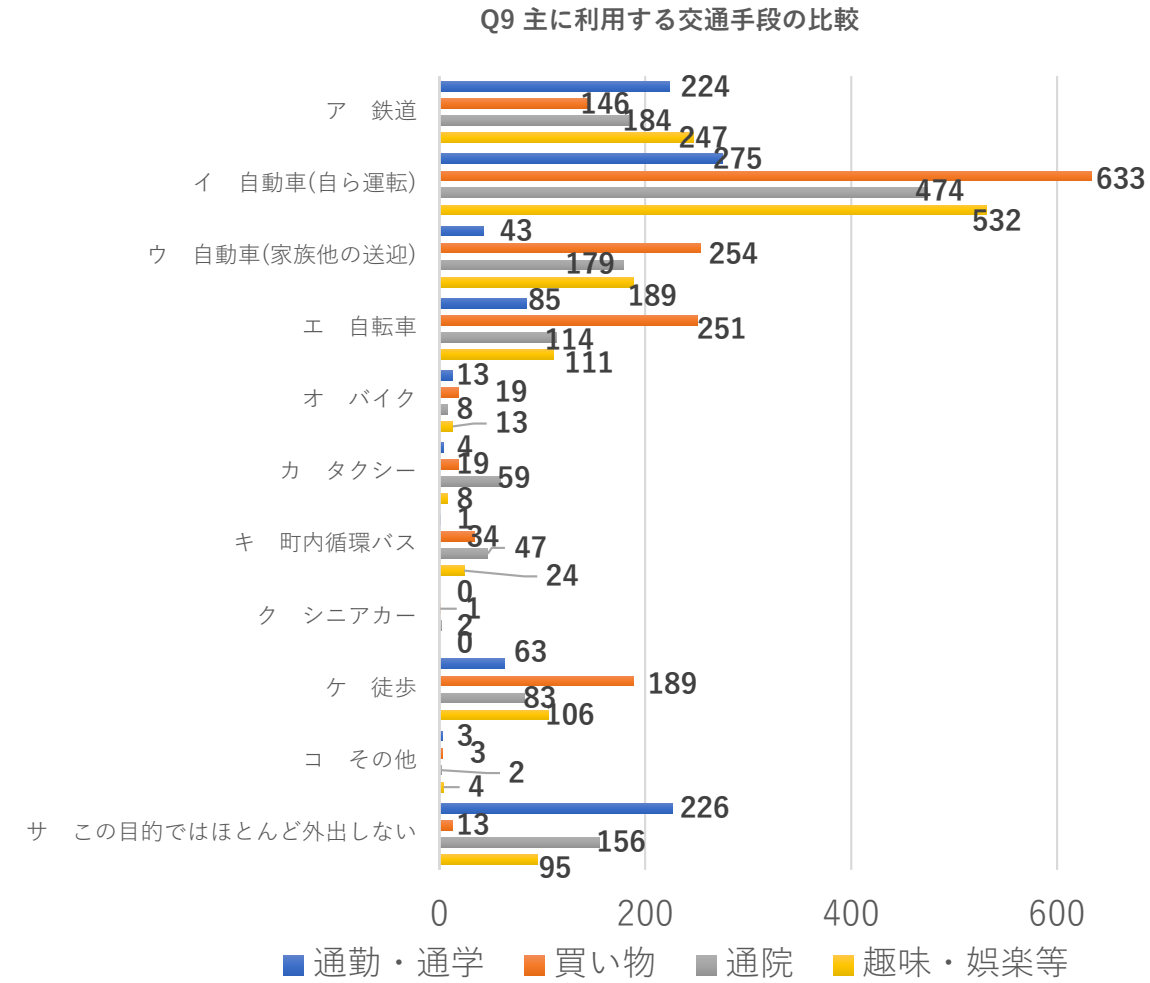


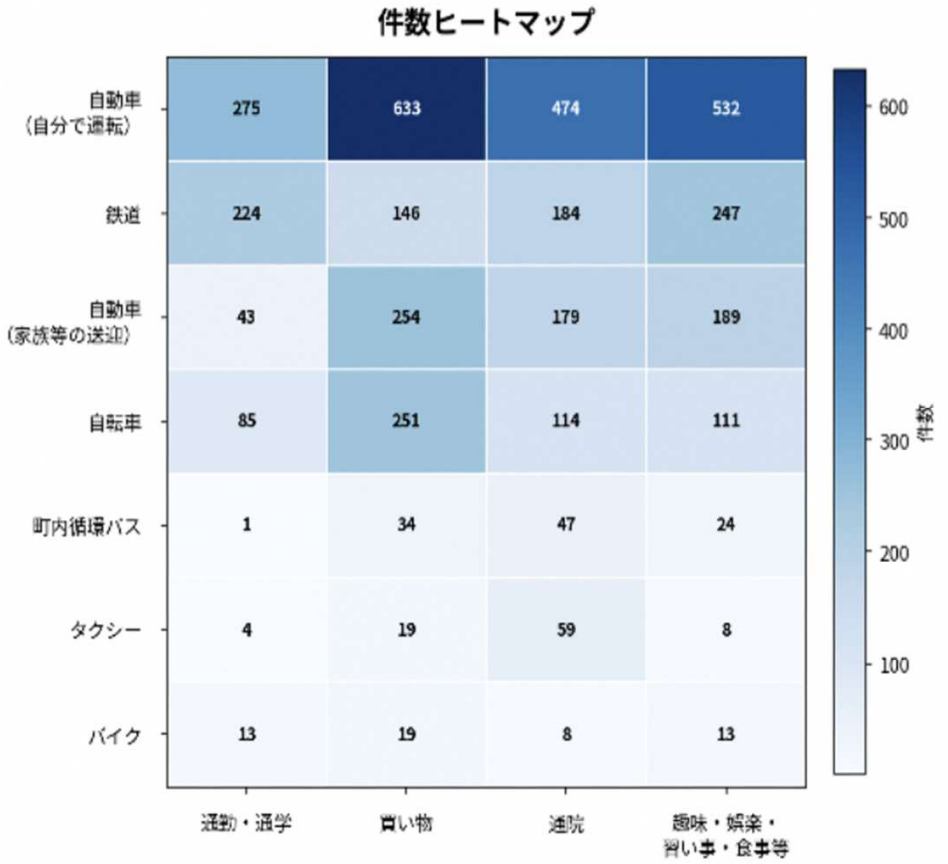
回答者居住地

順位	地域名	回答者数
1	東武動物公園駅周辺 （笠原・中央・宮代・本田）	183(18.3%)
2	和戸駅周辺 （和戸1丁目から5丁目）	87(8.7%)
3	道仏	81(8.1%)
4	姫宮駅東口 （川端1丁目から4丁目）	72(7.2%)
5	宮代台・国納北	66(6.6%)
6	百間 （1丁目から6丁目）	66(6.6%)
7	須賀 （須賀上・須賀下・須賀島）	49(4.9%)

調査結果：住民意識調査　　「日常の外出状況と移動手段」

・自家用車が主、全目的で「自動車（自ら運転）」が最多
　　買い物633件 ／ 通院474件 ／ 趣味532件
・循環バス利用　　買い物　34件 ／ 通院　47件 ／ 趣味　24件

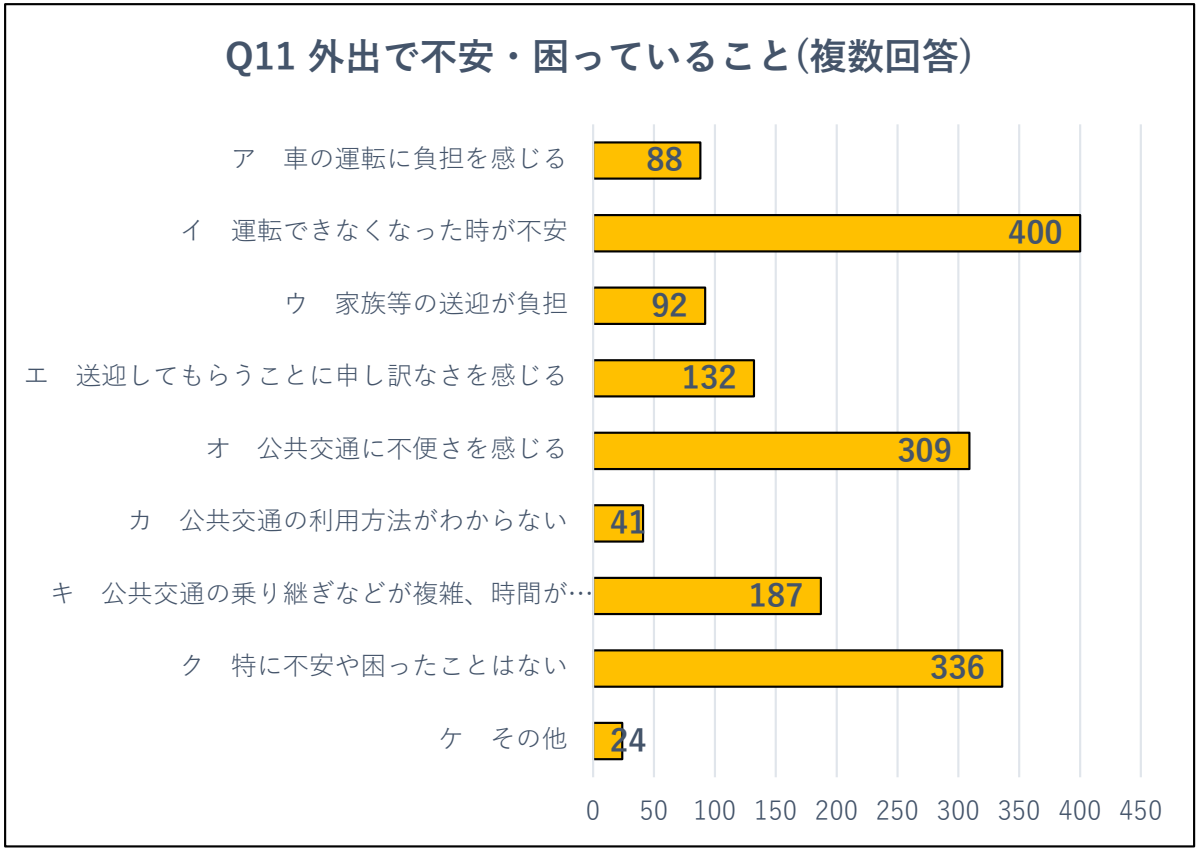




調査結果：住民意識調査　　外出に感じる不安や困りごと

・「特に不安なし」336人（34.7%）⇔　2／3以上が何らかの不安を感じている

※「運転できなくなる」「公共交通が不便」など



地区別の不安傾向（抜粋・記述回答より）

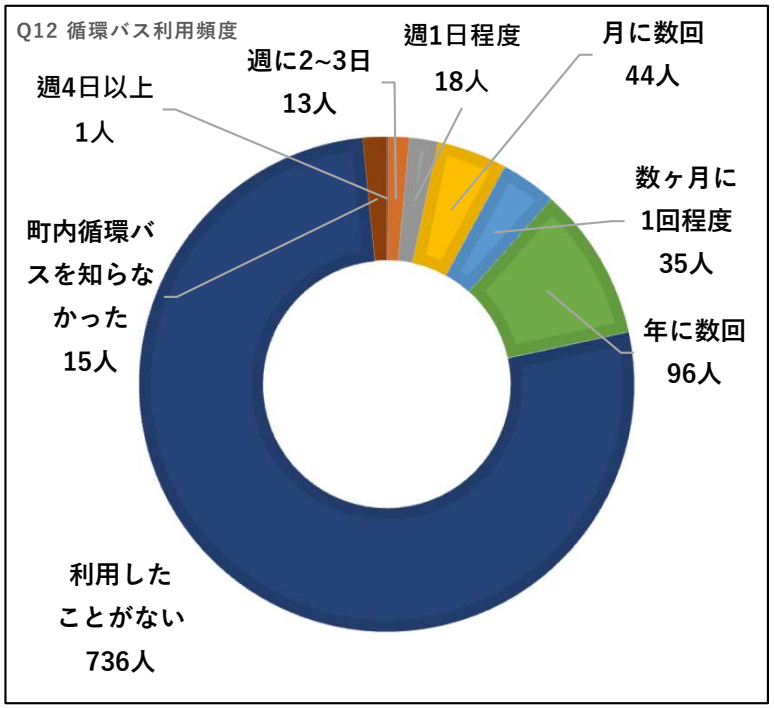
地区	困り事
中島・百間地区	スーパー閉店後、買い物に関する移動に困難さを感じている
東・藤曽根地区	バス停が遠く、雨天時の外出のしにくさがある
西原・山崎地区	バスの本数が少なく、通院に不便さがある
宮代台地区	高齢者の免許返納後の移動手段に不安が多い 循環バスの路線もあるが代替手段として捉えられていない

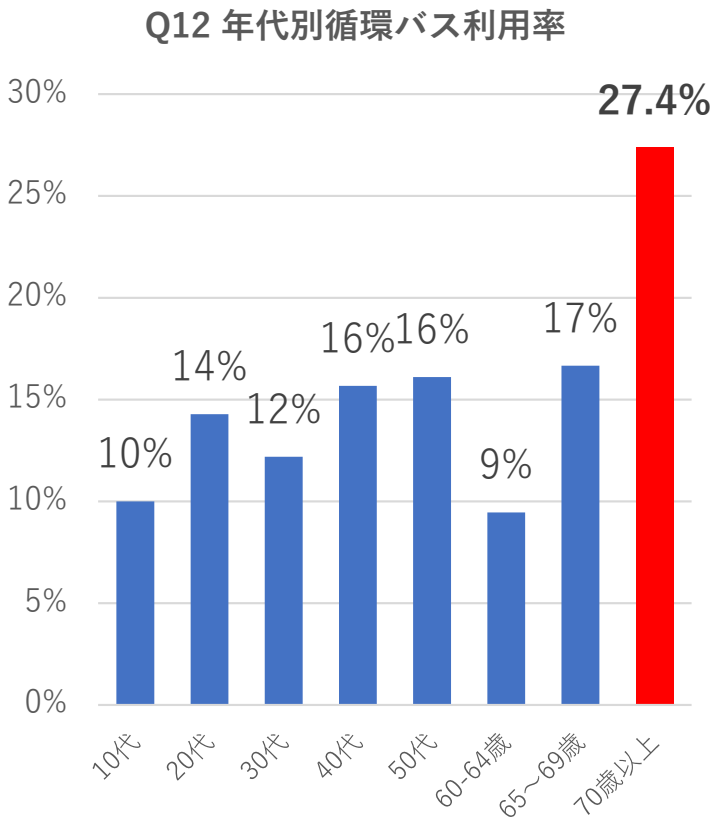
調査結果：住民意識調査　　町内循環バスの利用状況

・中核ユーザーは高齢者層
　70歳以上の利用率 27.4%　⇔　他の年代（10~15%台）の約2倍

・利用目的（複数回答）の最多は「レジャー、娯楽」　57件（２９．１％）
　以下「通院」　40件（20.4%）、買い物　31件（15.8%）

・利用したことが無い736人（76.8%）、知らなかった15人（1.6%）



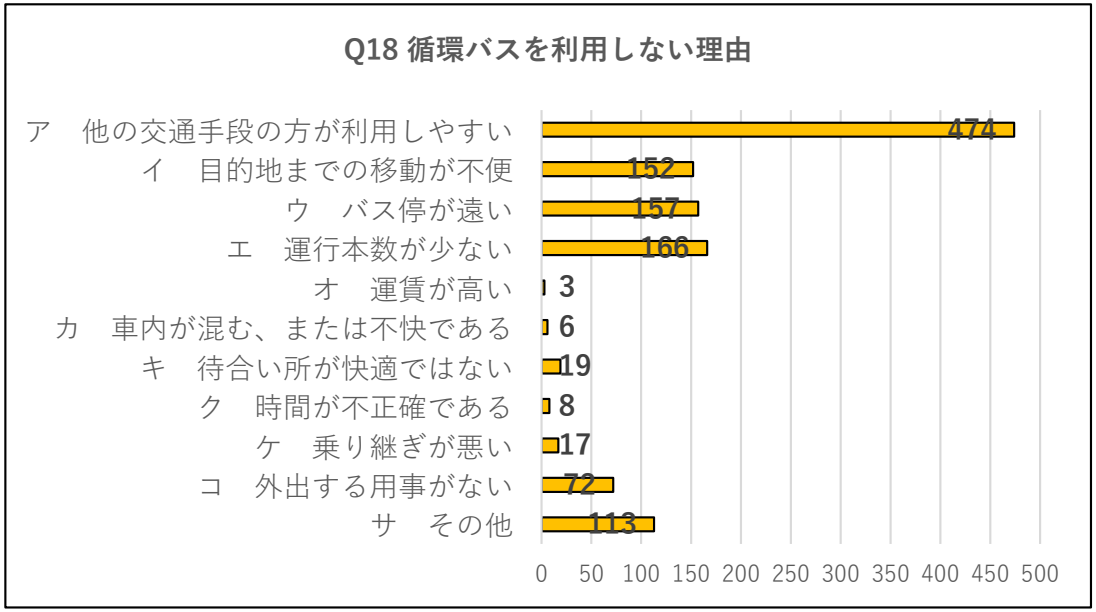


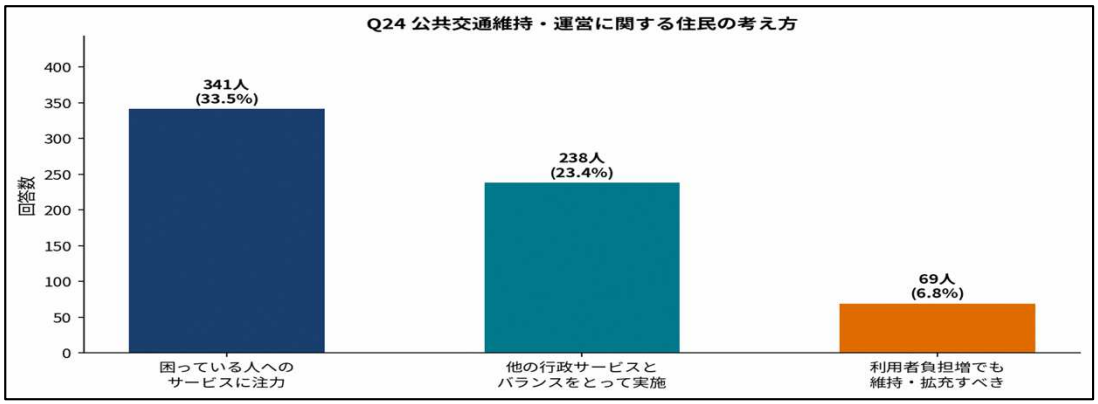
循環バスの利用目的(回答196人中)

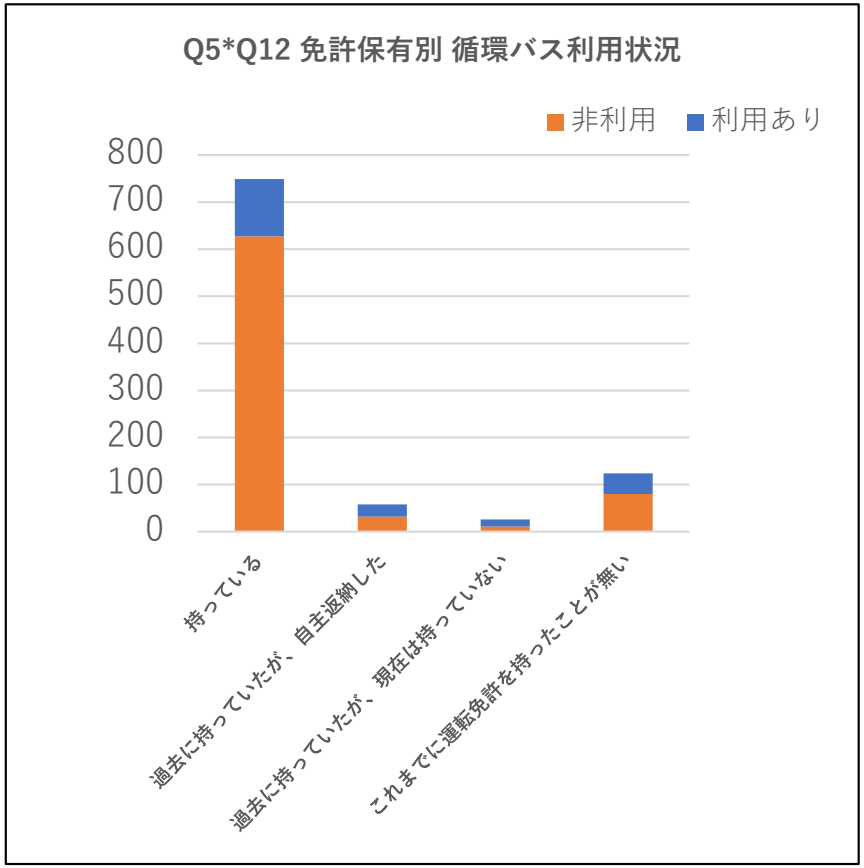
目的	回答数
通勤・通学	6件 (3.1%)
買い物	31件 (15.8%)
通院	40件 (20.4%)
レジャー・娯楽 (観光、スポーツ、 外食など)	57件 (29.1%)
習い事	6件 (3.1%)

調査結果：住民意識調査　　循環バスを利用しない理由

・「他の交通手段の方が利用しやすい」　474件（39.9%）が最多
　次点「運行本数が少ない」166件（14%）「バス停が遠い」 157件（13.2%）
　　「目的地への移動が不便」152件（12.8%）　※以上、複数回答
・免許非取得者・返納済者の利用割合が高い







調査結果：主要施設利用者調査

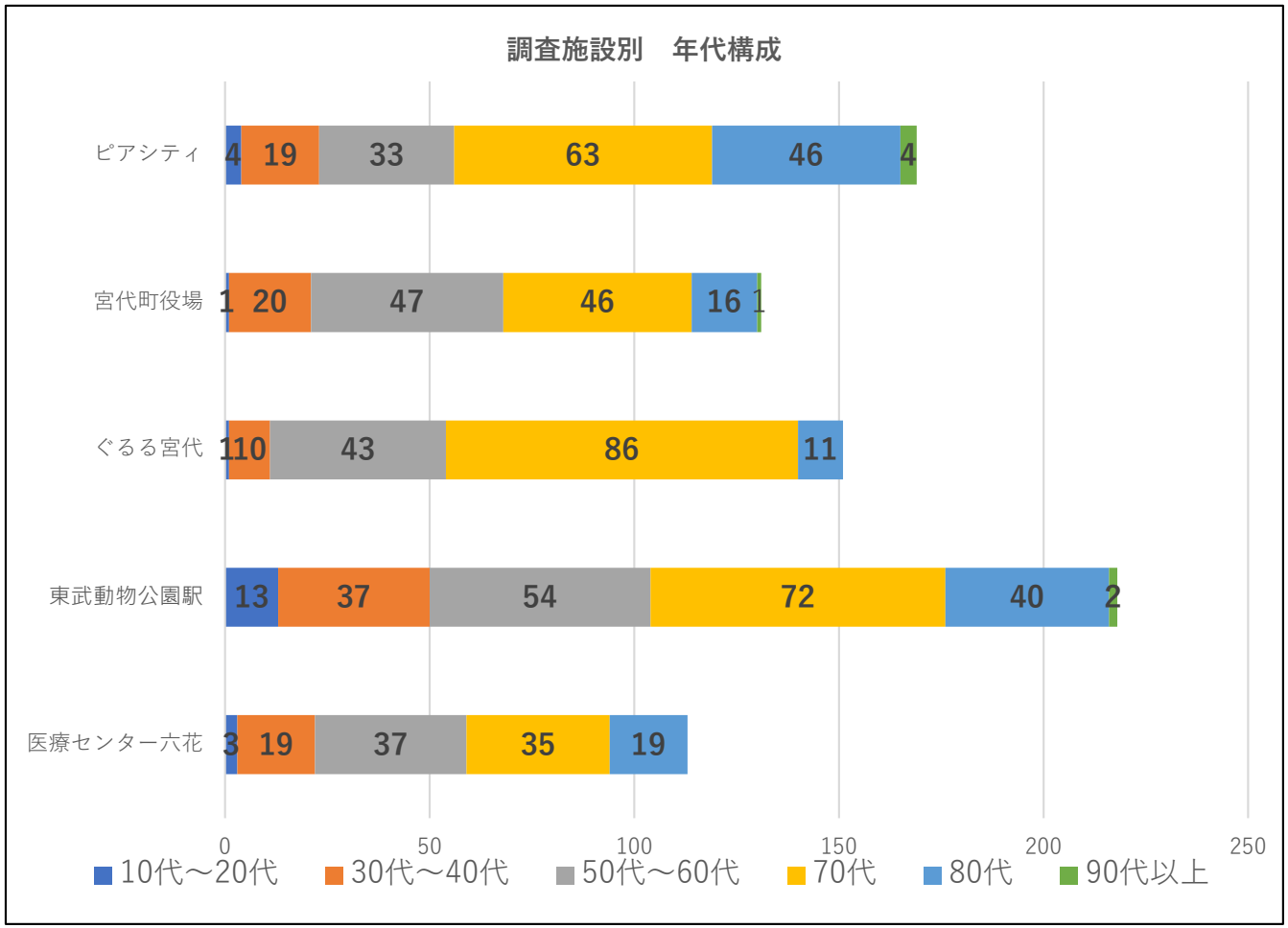
項　目	詳　　細
調査対象	対象施設の利用者
調査件数	792人
調査様式	ブースにてスタッフが声掛け 1～3分程度のヒアリング調査 調査員がフォームに入力し記録
実施 場所・期間	宮代町役場　10月23日・24日 総合運動公園ぐるる宮代　10月29日・30日 ピアシティ宮代　10月31日・11月1日 東武動物公園駅　11月3日・4日 公設宮代福祉医療センター六花 11月6日・11月7日
回答数	792人





調査結果：主要施設利用者調査

ヒアリングでは、70代が全体の302人（38%）
高齢者の移動支援、交通課題への対応が最優先事項

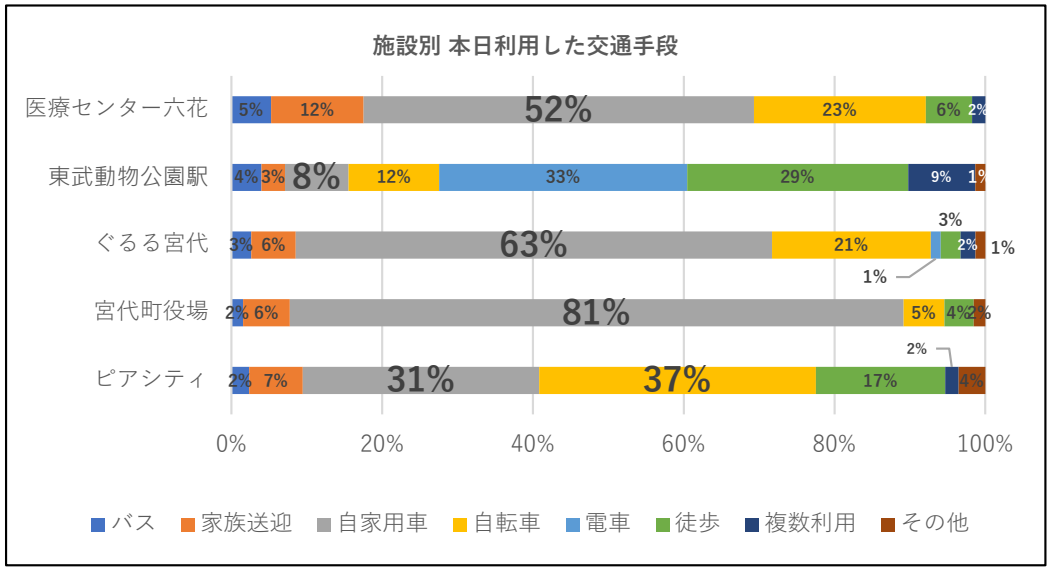


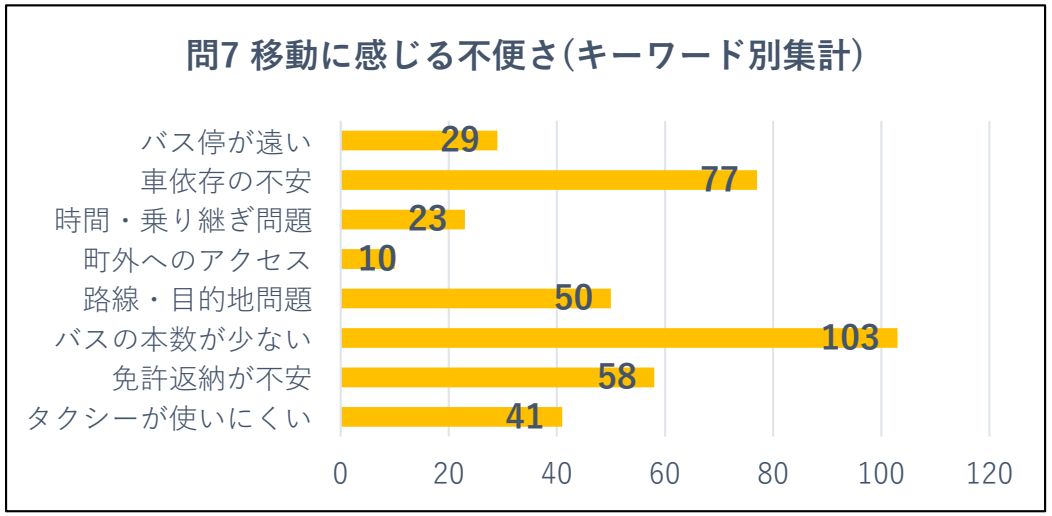
ヒアリング施設別の傾向

施設名	件数と傾向
ピアシティ	169件 70代 37%、80代 27%
宮代町役場	131件 50-60代 36%
ぐるる宮代	151件 70代が57%で施設比較では最大割合
東武動物公園駅	218件 70代 33%、80代 18%
医療センター六花	113件 50-60代 33%

調査結果：主要施設利用者調査

利用交通手段：自家用車利用が最多、宮代町役場は、8割以上が自家用車来訪
移動に関する不便さ：バス・タクシーへの課題が一定数聞かれた





ヒアリング施設別の傾向

施設名	件数と傾向
福祉医療センター六花	車 52%、家族送迎 12% 利用者の状況から自力通院が困難な利用者もあった
東武動物公園駅	徒歩29%、自転車12%、乗り継ぎは少なく、鉄道利用で完結させることが大多数である
ぐるる宮代	自家用車が63%、バス停はあるが、時間が合わないなどの理由で選ばれていないケースもあった
宮代町役場	自家用車81% 車依存での来訪割合が最多
ピアシティ	自転車37% 近隣からの来訪が多い

調査結果：地域ワークショップ

項　目	詳　　細
調査対象	地区連絡会役員、会員
調査件数	第1回　4回　／　第2回　2回
調査様式	第1回　地区連絡会に参加、会議議題として開催 第2回　ワークショップ形式で開催
実施期間	第1回　9/5（古利根地区）、9/6（駅西口地区） 9/6（須賀地区）、9/7（姫宮地区） 第2回　11/29 午前・午後 2回開催
参加者数	第1回　9/5　10名、9/6　13名／27名 9/7　24名 第2回　11/29　午前 27名 ／ 午後 20名
内容	第1回　宮代町の交通について 地域公共交通と宮代町の公共交通の現状 意見交換 第2回　宮代町交通に関する現状共有 調査内容中間報告、他地域事例紹介 意見交換





調査結果：交通動向調査（バス）

項　目	詳　　細
分析対象	町内循環バス
根拠データ	令和6年度バス停毎の乗降車人数一覧データ（宮代町提供）
データ性質	停留所ごとの月間乗降車人数

利用実績サマリー　令和6年度（2024年4月～2025年3月）

項　目	詳　　細
年間乗車人数	56,586人
月間最大利用月	3月　5,686人
月間最小利用月	4月　1,865人（計測機器載替時期）　※次点　8月　3,957人
月平均乗車	4,716人

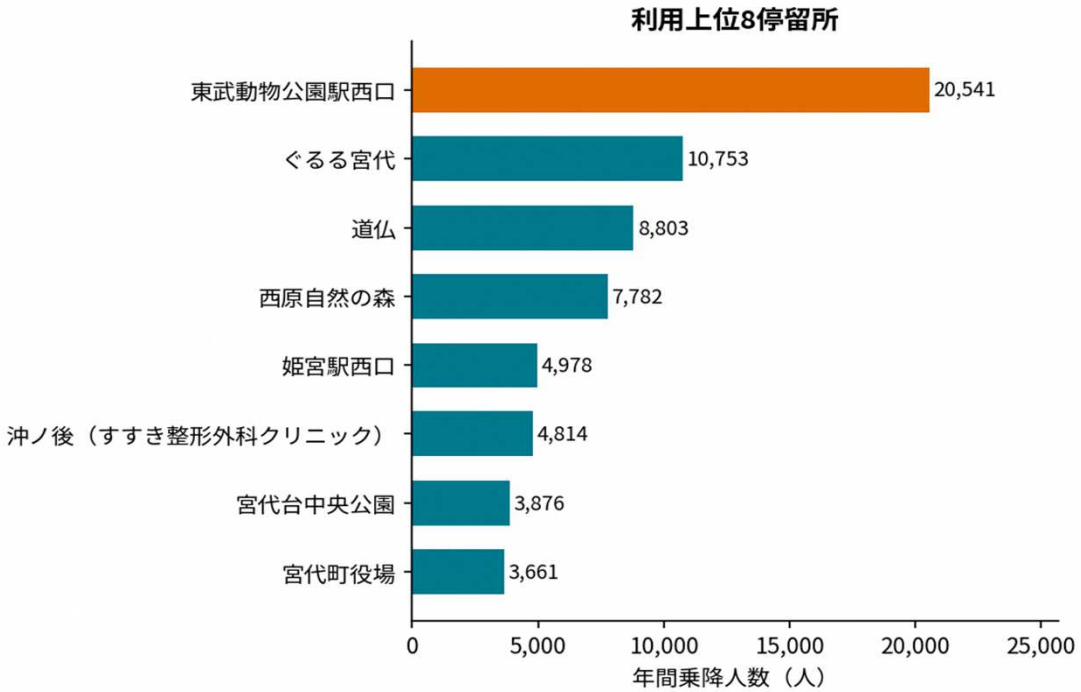
調査結果：交通動向調査（バス）

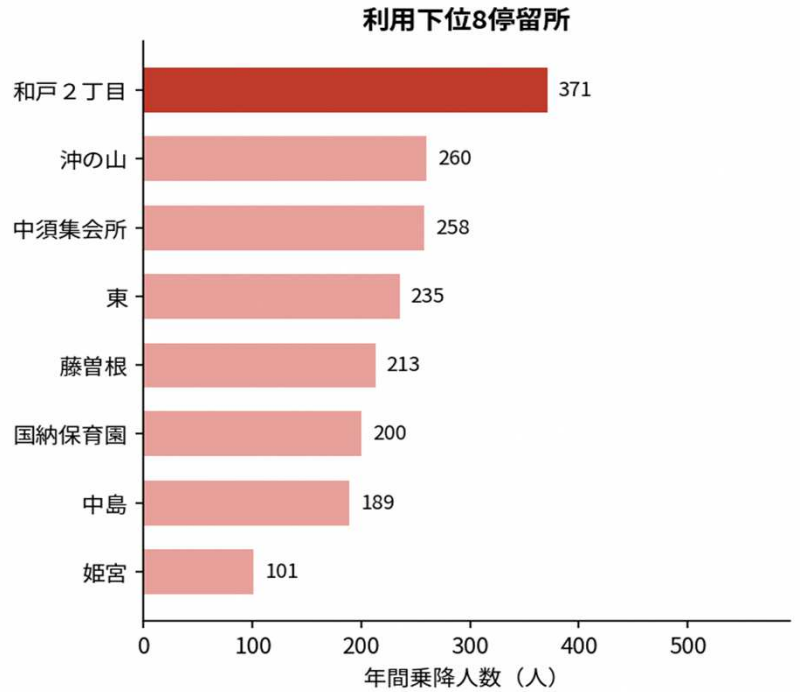
利用上位バス停

順位	バス停名	年間乗降数
1	東武動物公園駅西口	20,541
2	ぐるる宮代	10,753
3	道仏	8,803

利用下位バス停

順位	バス停名	年間乗降数
1	姫宮	101
2	中島	189
3	国納保育園	200





調査結果：交通動向調査（バス）

乗降差分データ上位
ぐるる宮代→西原(往路) 西原→ぐるる宮代(復路)
(式：降車-乗車)

順位	バス停名	降車	乗車	差
1	宮代台1丁目	2,164	876	1,288
2	日本工業大学入口	1,804	1,113	691
3	公設宮代医療福祉センター六花	783	202	581

乗降差分データ上位
西原→ぐるる宮代(往路) ぐるる宮代→西原(復路)
(式：降車-乗車)

順位	バス停名	降車	乗車	差
1	和戸駅	1,294	36	1,263
2	宮代町役場	1,437	727	710
3	公設宮代医療福祉センター六花	898	311	587

乗降差分データ下位
ぐるる宮代→西原(往路) 西原→ぐるる宮代(復路)
(式：降車-乗車)

順位	バス停名	降車	乗車	差
1	東	14	5	9
2	姫宮北団地北公園	23	21	2
3	藤曽根	1	0	1

乗降差分データ上位
西原→ぐるる宮代(往路) ぐるる宮代→西原(復路)
(式：降車-乗車)

順位	バス停名	降車	乗車	差
1	和戸2丁目	59	49	10
2	川端公民館	1,006	998	8
3	沖の山	1	0	1

バス乗降データに見る課題整理

①利用集中と偏在
・東武動物公園駅西口が年間20,541人と突出した利用数（全体の18％）
・上位5停留所で利用の約50％を占める集中構造
・姫宮地区の停留所（年間乗降数101人）との格差が顕著

②低利用停留所の課題
・利用0~500人未満の停留所が9か所以上

③季節変動・時間変動
・月平均乗車数（4,716人）から月により、上下1,000人程度の変動あり

調査結果：交通事業者ヒアリング　　バス事業者

・事業単体としての収益性は低く、自治体支援が必要という認識
・従業員の待遇向上にも悩み
・高齢者の日常移動需要について
　現状維持、今後増加するのではないかという感覚

ヒアリングまとめ

項　　目	内　　容
事業の現状と利用傾向	・主利用者は高齢者（商業施設・病院への移動が中心） ・利用時間帯は朝から昼にかけて集中 ・車いす利用者も一定数あり、乗降ルートへの配慮が必要 ・循環バスは地域貢献的側面が強く収益化が難しい事業
利用者ニーズと評価	・交通系ICカード（バス）・クレジットカード（タクシー）が利用可能 ・バスに乗れない利用者からもタクシー助成制度は日常的に活用され好評 ・便数の変動直後には、利用者から戸惑いの声あり ・需要と供給のバランスには、引き続き課題 ・朝昼の利用集中に対し便数が追いついていない面がある
事業運営上の課題	・ドライバー不足が深刻（50代半ばが中心・今後さらに悪化懸念） ・運転手定員の減少により休日数を削減して対応中 ・人員を増減させない体制工夫も限界が近い状況 ・ライドシェア導入は雇用面・収支面から慎重な姿勢

調査結果：交通事業者ヒアリング　　タクシー事業者

・一定の需要により事業継続性は安定
・今後需要の変動については「見通しが立ちにくい」
・ドライバーの高齢化について、各社から心配の声も聞かれた

ヒアリングまとめ

項　　目	事業者A	事業者B	事業者C
事業の現状と利用傾向	・朝～昼の利用が中心（高齢者・生活目的） ・需給バランスに課題あり	・日間180～200件・安定した需要 ・宮代町の利用は全体の約3割	・年間売上堅調推移 ・繁忙時間帯には、一部予約断り ・配車アプリ（GO・Uber）導入済
利用者ニーズと評価	・ICカード（バス）、クレカ（タクシー）対応 ・タクシー助成制度、日常的活用	・タクシー補助券は好評 ・東口（鉄道駅）からの利用が最多 ・免許返納者の定期利用が増加	・配車アプリで利便性向上、利用増 ・タクシー補助券で高齢者利用安定 ・使用枚数制限には、一部不満も
事業運営上の課題	・宮代町内タクシー配車が少く、一部断り ・ドライバー50代中心 今後不足の深刻化を懸念 ・ライドシェアは雇用、収支面で心配があり慎重	・ドライバー平均65歳 ・今後半数超に不安 ・GOアプリ等デジタル移行には現場の慣れが必要 ・バス縮小時、代替需要増の可能性	・繁忙時間帯の需要集中が最大課題 ・ドライバー平均50代、高齢化進行 ・料金が高いとの声に対応限界あり
これからの展望など	・デマンド交通が既存タクシーを圧迫しないか懸念 ・条件次第で乗合タクシー等への協力可 ・宮代町と前向きな意見交換希望	・体制見ながら需要増への対応検討 ・バス利用できない方の代替手段として役割 ・乗合タクシーは運行委託条件次第 ・高齢者が出かけやすい町づくりに貢献したい	・地域公共交通への参加意向あり（条件付き） ・時間帯別需要への柔軟な体制整備必要 ・持続可能な事業条件の整理が重要課題 ・担い手として役割を継続する意志あり

調査結果：交通事業者ヒアリング　　福祉有償運送事業者

・今後移送サービスはさらに需要が高まるという見込
・高齢者、一人暮らしの増加から、「見守り機能付き地域密着型」を志向

ヒアリングまとめ

項　　目	内　　容
事業の現状と利用傾向	・特定路線、時刻表なし、利用者依頼による個別対応型 ・車両はドライバー各自の自家用車を使用（自宅まで迎え） ・運賃：タクシーの80%以下（2023年改正で100円→200円/km） ・生活サポート依頼は年間約5,000件、うち移送サービスが約7割を占める ・利用件数は大きな増減なく一定数を維持
利用者ニーズと評価	・顔なじみドライバーによる対応が安心感につながっている ・ケアマネジャー経由の登録が多く、福祉連携が強み ・当日でも対応可能な柔軟性（空き状況次第） ・介護認定なしでは制度上利用できないケースあり ・現存していない潜在ニーズは一定数存在すると事業者も認識
事業運営上の課題	・予約はすべて電話対応（3名体制）→担当者の負担が大きい ・デジタル予約、決済は未導入（電話完結） ・介護認定要件により対応できない相談が一定数発生 ・稼働ドライバーは登録29名中5～10名にとどまる ・各ドライバーが自家用車を使用→車両の統一管理が困難 ・制度的制約により潜在需要を取りこぼしている現状